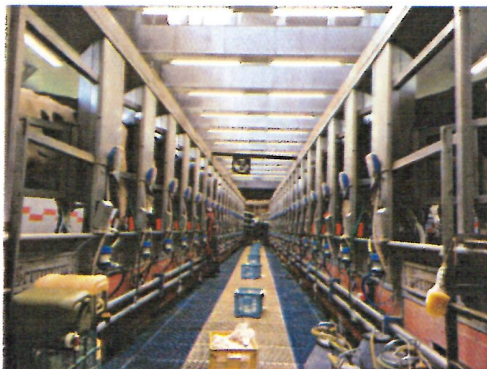


酪農研修報告①

2016年5月19日～5月28日までの10日間、ヤマギシズム別海実頭地で研修をさせていただきました。研修を受け入れてくださったヤマギシの皆様、本当にありがとうございました。

研修では様々なことを経験することができました。19日はスラリー撒き、20日と21日はD牛舎、22日に哺乳、23日は飼料と除角、24日には分娩房、25日と26日は西春別、27日にパーラー、28日の最終日には成牛の管理でした。紙面の都合上、ここで全てを書くことはできないので、簡単ではありますが、報告させていただきます。

今回の研修で、当たり前のことのようにですが酪農は『搾乳すること』を中心に回っているように感じました。搾乳するために牛をパーラーへ移動し、その間に牛床を掃除し、飼料を準備する。その飼料を作るためにスラリーを撒き、飼料設計をする。乳房炎にならないように搾乳時には清潔で手際のよい搾乳をする。搾乳や後継牛確保のために繁殖管理を行い、育成牛を健康に育てる。実際に仕事の現場を経験することで、一つ一つの作業の意味や大変さを知ることができました。特にパーラーでは、あれだけの頭数をどうやって搾乳するのだろうか？とっていました。しかし、スピードと丁寧さに加えて、乳房や乳の状態、平均乳量、電気伝導度を確認しつつ搾乳しており、非常に集中力が必要な仕事だと感じました。



今後、様々な場面でこの研修で学んだことが生きてくると思いますし、この経験を活かせるようになりたいと思いました。本当にありがとうございました。

＊ ヤマギシの皆様が使われている『採乳』ではなく、わかりやすく『搾乳』という言葉を使わせていただきました。

酪農研修報告②

2016年5月30日~6月3日までの6日間、上春別の片岡農場で農場研修をさせていただきました。ヤマギシに続いて、二週連続の研修となりました。二つの農場で研修できたことで、農場によって様々な違いがあることがわかりました。一つの大きな違いは片岡農場では敷料に砂を使用していたことです。様々な雑誌や本を読み、砂の敷料は乳房炎の原因となる細菌が増殖しにくく、牛にとって非常に快適なものであるということは知っていました。しかし、実際に砂のベッドの管理作業をすると、思っていたよりも大変であることを実感しました。砂入れの作業日は天気が悪く、やや湿った砂をならすのにはこんなにも体力が要るのかと思いました。さらに、毎日のベッド掃除でも、糞や尿を残さないように丁寧に掻き出さなければなりません。これまでは、知識でしか砂のベッドについて知らなかったのも、作業をする人の負担を実際に体験できたことは良い経験となりました。砂の管理は大変でしたが、写真のようにほとんどの牛がベッドで休んでいる様子を見たときには、ベッドを綺麗にしてよかった！と思えました。



搾乳では、プレディッピングに塩素を使用していました。

塩素の効果については、黒崎先生が今月のM情報で詳しく書いています。泡状になって乳頭に付着させるので、タオルで拭き取るときにも、きちんと拭き取れているかどうかを確認しやすかったです。ただ、前絞りのときに少しぬるぬるしていて滑りやすいかな？という印象はありました。

掃除、搾乳、哺乳など様々なことを経験することができ、毎日仕事をしている皆さんに比べたら短すぎる実習期間ではありますが、酪農の大変さを感じることができました。

最後になりましたが、片岡農場の皆様、6日間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

Yusuke IWASAWA